

海洋深層水利用学会

2019 年度定期総会議案書



議事次第

| 番号 | 項目 |
|------|-------------|
| I | 開会の辞 |
| II | 議長選出 |
| III | 会長挨拶 |
| IV | 2018 年度事業報告 |
| V | 2018 年度決算報告 |
| VI | 2018 年度監査報告 |
| VII | 2019 年度事業計画 |
| VIII | 2019 年度予算 |
| IX | その他 |
| X | 閉会の辞 |

日時:2019 年 5 月 29 日(水) 15:00-15:50

場所:東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館 2 階多目的スペース 1

IV. 2018 年度事業報告

1. 事務局

[1] 会員動向

| 年 | 月 | 個人 | 団体 |
|------|--------|-----|----|
| 2011 | 3 | 160 | 45 |
| 2012 | 3 | 162 | 45 |
| 2013 | 3 | 151 | 43 |
| 2014 | 5 | 148 | 42 |
| 2015 | 5 | 141 | 46 |
| 2016 | 5 | 134 | 44 |
| 2017 | 5 | 130 | 44 |
| 2018 | 5 | 122 | 44 |
| 2019 | 5(28日) | 123 | 42 |

[2] 2018 年度定期総会

開催日：2018年5月24日(木) 13:30 - 14:45

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館2階多目的スペース1

議題：2018-2019年度理事選挙結果

2017年度事業報告

2017年度決算報告

2017年度監査報告

2018年度事業計画

2018年度予算

その他

講演会：

1. 【第3期海洋基本計画について】

内閣府総合海洋政策推進事務局局長 羽尾 一郎 氏

2. 【離島地域における海洋深層水を活用した地域活性化可能性調査について】

沖縄総合事務局経済産業部商務通商課 野原 貞夫 氏

情報交換会： 栄華楼 新館（えいかりょうしんかん）

[3] 2018 年度理事会

第1回 日時：2018年5月24日(木) 10:30-14:00

場所：東京海洋大学品川キャンパス 2号館2階 200A会議室

第2回 日時：2018年10月18日(木) 13:10-13:50

場所：国立研修館会議室（韓国 高城郡）

第3回 日時：2019年3月15日(金) 15:00-17:30

場所：東京海洋大学品川キャンパス 2号館2階 200A会議室

2. 学会賞授賞審査委員会

〔1〕学会賞授与対象者、授与対象となった業績および選考経過：

(1) 大内一之（株式会社 大内海洋コンサルタント）

「海洋深層水による海域肥沃化のための洋上取水装置の開発と海洋深層水の大規模活用技術」

大内一之氏は、海洋深層水を日量 10 万トン汲み上げる海域肥沃化装置「拓海」の装置開発と実証実験を主導し、2003 年 5 月から 2008 年 7 月まで現場実証実験を行い、深層水と表層水の混合水塊が密度流として生産層内を移動していく様子が 1 週間にわたって追跡され、海域肥沃化に決定的な初期段階が確認されるなど、優れた多くの成果を得ている。特に、大内氏が主導して開発した半没水型洋上浮体は、5 年間の洋上での係留設置実験の間、台風の直撃 2 回を含め、たびたびの荒天でも損傷は皆無であったように、洋上での深層水大量取水装置として長期間にわたって堅牢で安定した全天候型取水性能を維持することが証明された。

海洋での深層水と表層水の全天候型大量取水・放水装置の開発と、深層水の大規模活用これらの研究成果は、一連の研究論文などで数多く公表されている。

海洋での深層水と表層水の全天候型大量取水・放水装置の開発と、深層水の大規模活用技術の扉を開いた大内氏は、学会賞に十二分に値するものと評価した。

(2) 今田千秋（東京海洋大学）

「海洋深層水の有効利用と有用微生物の探索と産業への応用」

今田千秋氏は、これまでほとんど微生物の分離例がない海洋深層水に着目し、全国 8 か所の取水設備から海洋深層水とその表面海水を入手し、微生物の群集構造を遺伝子レベルで調べ、表面海水には存在しない独自の群集構造が海洋深層水に存在し、新たな微生物の分離源として大変有望であることを明らかにしている。さらに、微生物数の極めて少ない海洋深層水をフィルターで大量濾過濃縮し、有用微生物の探索を行い、抗癌物質生産放線菌、酸化ストレス耐性物質生産海洋細菌、チロシナーゼインヒビター生産海洋性乳酸菌、酸化ストレス耐性物質生産性海洋酵母など産業的に有用な微生物の分離に成功し、各種培養細胞に対する生物活性を明らかにしている。これらの中には陸上に全く見られないユニークな性状を有する微生物、新種の微生物および新規物質生産微生物も数多く存在し、海洋深層水が新規有用微生物の宝庫であることを示すなど、多くの成果を得ている。これらの成果は、本学会やその他の学会誌で論文となり、また講演発表も多数行われている。

海洋深層水の有効利用の推進として、有効微生物の探索と産業への応用に貢献された今田氏は、学会賞として十二分に値するものと評価した。

(3) 株式会社 ポイントピュール

「海洋深層水をベースにした機能性化粧品の開発と普及」

(株) ポイントピュールは、海洋深層水の清浄性と機能性に着目し、海洋深層水を独自の方法で精製して化粧品原料水をつくりだし、その化粧品原料水 100% に古くから美肌づくりによいとされる 30 種類の沖縄産植物エキスを調合して、独自の“機能性化粧品”の開発・製造に成功し、海洋深層水をベースとした機能性化粧品の普及に貢献した。さらに、開発した機能性化粧品に留まらず、他社の要求に応じた機能性化粧品を新たに開発製造して需要に積極的に応えてきている。会社設立後、16 年間で、160 社の ODM（(株)ポイントピュールが独自で製品開発）と OEM（相手先が製品の仕様と設計を依頼）の実績を上げている。

なお、(株)ポイントピュールの海洋深層水をベースにした機能性化粧品の製造技術は、経済

産業省が主催する「ものづくり日本大賞」の製造・生産プロセス部門の優秀賞など多くの賞を授賞するなど、産業界でも高く評価されている。

以上、(株)ポイントピュールは、海洋深層水を化粧品原水に利用し、新規の機能性化粧品を開発して広く社会に利用を進め、海洋深層水の資源利用の新しい分野を開拓し、さらに海洋深層水という地域資源で地域活性化に貢献しており、その業績は、学会賞として十二分に値するものと評価した。

〔2〕 特別功労賞（新設）授与対象者、授与対象となった業績および選考経過：

安 熙道（韓国海洋科学技術院）

「韓国における海洋深層水事業および学術分野の推進」

学会賞審査委員会において、今回の学会賞で、次点となった「安 熙道氏」の「韓国に海洋深層水事業並びに学問を最初導入及び普及業績」について業績を高く評価し、その業績を顕彰する。

3. 研究発表企画委員会

第 21 回 海洋深層水利用学会 全国大会

日時：2018 年 10 月 18 日(木)、19 日(金)

場所：国会研修館（大韓民国高城郡）

開催内容：

- ① 一般講演：研究発表 24 題
海洋・水質／生物・水産／農業・畜産関連：12 題
健康・医療関連：5 題
利活用システム関連他：7 題
- ② ポスター発表 11 題

見学会：

深層水取水施設（蟹飼育施設、蓄養施設、京東大学、飲料水製造施設、深層水研究施設）、
スケトウダラ祭り

開催状況(参加者)：

総員 174 名（スタッフ 20 名含む）

日本 58 名、台湾 17 名、韓国 79 名（内、京東大学学生 30 名）

4. 論文誌編集委員会

- 〔1〕「海洋深層水研究 第 19 巻 第 1 号」 (2018 年 10 月発行)
原著論文 1 編、ニューズレターなど
- 〔2〕「海洋深層水研究 第 19 巻 第 2 号」 (2018 年 10 月発行)
韓国大会講演要旨集
- 〔3〕「海洋深層水研究 第 19 巻 第 3 号」 (2019 年 6 月発行予定)
原著論文 2 編、解説記事など

5. ニュースレター編集委員会

[1] Vol. 21, No. 1 (2018年7月発行)

トピックス1:「第7回『ものづくり日本大賞』優秀賞受賞
大道 敦 (株式会社ポイントピュール 代表取締役)

報告1:「海洋深層水利用学会 2018年度第1回理事会報告」
安永 健 (海洋深層水利用学会 事務局長)

報告2:「海洋深層水利用学会 2018年度定期総会報告」
安永 健 (海洋深層水利用学会 事務局長)

報告3:「海洋深層水利用学会発足20周年記念講演会報告」
安永 健 (海洋深層水利用学会 事務局長)

[2] Vol. 21, No. 2 (2019年6月発行予定)

報告1:「海洋深層水利用学会 2018年度第3回理事会報告」
安永 健 (海洋深層水利用学会 事務局長)

報告2:「第22回海洋深層水利用学「2018韓国大会」報告」
今田 千秋 (海洋深層水利用学会 ニュースレター編集委員長)

6. ホームページ編集委員会

主な活動内容 … ホームページ更新・メール配信*

[1] 開催案内・報告等

- ① 総会・理事会開催案内および報告
- ② 全国大会 (研究発表会) 案内・報告、ホームページからの申込み
- ③ 利用者懇談会開催案内・報告
- ④ 学会賞候補者募集および受賞者決定報

[2] 発刊物掲載

- ① ニュースレター: 第21巻第1号
- ② 論文誌: 第19巻第1~2号

[3] 既存ページの更新・追加

- ・日台韓交流協定書締結、日台韓交流委員会発足について
- ・他、活動内容、組織構成・役員等 掲載内容の更新

[4] 既存ページの更新・追加等

メールニュース、全国大会関連、定期総会・学会賞候補募集他学会からのお知らせ、共催協賛イベント・深層水関連フォーラム・シンポジウム等 会員提供情報のお知らせ

[5] 既存ページの更新・追加等

日本語および英語サイトのトップページ (右上) にサイト内検索窓を設置

7. 利用促進委員会

〔1〕 2018 年海洋深層水利用者懇談会

韓国大会前夜(2018 年 10 月 17 日(水))に歓迎レセプションとして開催

〔2〕 海洋深層水の周知と利用促進啓発(学術)

かかりつけ薬剤師制度(2017 年 4 月施行)を睨んだ医療・健康分野への海洋深層水利用促進に向けた周知・啓発を目的として、下記総説論文を執筆し「日本補完代替医療学会誌」(<http://www.jcam-net.jp>)に投稿し掲載された。

山本樹, 山田勝久, 鈴木信孝, 許鳳浩, 高橋正征 (2018). 海洋深層水の未病・予防医学分野における展望. 日本補完代替医療学会誌: 15(2), pp. 67-77. (J-STAGE で閲覧可)

〔3〕 海洋深層水の周知と利用促進啓発(実証)

第三期海洋基本計画に海洋深層水の文言が明記されたことに呼応して、久米島の海洋深層水の飲用による島民の健康維持・増進に関する臨床研究(久米島プロジェクト)を提案した。

8. 日台韓交流委員会

〔1〕 3 学会交流協定締結

海洋深層水利用学会、台湾深層海水資源利用学会、韓国海洋深層水利用学会の 3 学会の交流協定を、2018 年 10 月 18 日、第 22 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2018 韓国大会の初日に締結した。

〔2〕 会員派遣

2018 年 12 月 6 日に台北市の集思台大会議センターで開催された、台湾深層海水資源利用学会特別シンポジウムに高橋会長が招待され、講演者として大塚が出席した。また、翌 12 月 7 日に台東市の国立台湾史前文化博物館で開催された、同学会研究成果発表会に高橋会長が出席した。

〔3〕 ニュースレターへの学会大会報告

2018 年 12 月 6 日、7 日に開催予定の、台湾深層海水資源利用学会特別シンポジウムならびに研究成果発表会の報告を DOWAS ニュースレターに掲載予定。

9. 総合戦略検討委員会

- ・内閣府総合海洋政策本部推進事務局との情報交換を行った。
- ・内閣府総合海洋政策本部事務局長に新しい第三期「海洋基本計画」についてご講演いただいた。

V. 2018 年度決算報告

2018年度会計収支報告書

| 収入の部 | 予算 | | | 決算 | | |
|------------------|--------|-----|------------------|--------|-----|------------------|
| | 人数 | | | 人数 | | |
| 収入の部 | | | | | | |
| 会費収入 | | | | | | |
| 個人会員 | 5,000 | 122 | 610,000 | 5,000 | 112 | 560,000 |
| 学生会員 | 2,500 | 4 | 10,000 | 2,500 | 3 | 7,500 |
| 団体会員 | 50,000 | 44 | 2,200,000 | 50,000 | 42 | 2,100,000 |
| 徴収免除会員(名誉会員) | - | 1 | 0 | - | 1 | 0 |
| 未納分会費収入 | 5,000 | 7 | 35,000 | | | |
| | 50,000 | 1 | 50,000 | | | |
| その他の収入 | | | | | | |
| 論文誌売上費 | | | 0 | | | 18,000 |
| 利息 | | | 0 | | | 51 |
| 雑収入 | | | | | | |
| | | | | | | 13,860 |
| 当期収入合計(A) | | | 2,905,000 | | | 2,699,411 |
| 前年度繰越金 | | | 5,183,884 | | | 5,183,884 |
| 収入合計(B) | | | 8,088,884 | | | 7,883,295 |
| 支出の部 | | | | | | |
| 事業費 | | | | | | |
| 総会 | | | 30,000 | | | 147,590 |
| 研究発表企画委員会 | | | 500,000 | | | 109,410 |
| 論文誌編集委員会 | | | 1,000,000 | | | 326,477 |
| HP/NL編集委員会 | | | 250,000 | | | 180,468 |
| 日台交流委員会 | | | 100,000 | | | 50,246 |
| 利用促進委員会 | | | 30,000 | | | 0 |
| 事務局経費 | | | | | | |
| 委託費 | | | 1,200,000 | | | 1,200,000 |
| 消耗品費 | | | } 200,000 | | | 28,692 |
| 通信運搬費 | | | | | | 10,571 |
| 旅費 | | | | | | 105,560 |
| その他事務経費 | | | | | | 48,972 |
| 当期支出合計(C) | | | 3,310,000 | | | 2,207,986 |
| 当期収支差額(A)-(C) | | | -405,000 | | | 491,425 |
| 次年度繰越金(B)-(C) | | | 4,778,884 | | | 5,675,309 |

VI. 2018年度監査報告

2019年3月14日

海洋深層水利用学会

会長 高橋 正征 様

2018年度会計監査報告

2018年度における本学会の会計に関して、出納帳簿および証拠書類を精査し、現金・預金の残高と照合しましたところ、すべて適正に処理されているものと認めました。

また、その他の会務に関しましても、会則に沿って適正に執行されているものと認めました。

以上、署名の上、報告します。

2019.03.14
監査 白石 學 君

VII. 2019年度事業計画

1. 総会および理事会

[1] 2019年度定期総会

開催日：2019年5月29日(水) 15:00 - 15:50

場 所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館2階多目的スペース1

議 題：2018年度事業報告
2018年度決算報告
2018年度監査報告
2019年度事業計画
2019年度予算
その他

講演会：

1. 【海洋深層水の有効利用と有用微生物の探索と産業への応用】
東京海洋大学 教授 今田 千秋 氏
2. 【海洋深層水による海域肥沃化のための洋上取水装置の開発と海洋深層水の
大規模活用技術への貢献】
株式会社大内海洋コンサルタント 代表取締役 大内 一之 氏
3. 【海洋深層水をベースにした機能性化粧品の開発と普及】
株式会社ポイントピュール 代表取締役 大道 敦 氏

情報交換会： 東京海洋大学（生協食堂）

[2] 2019年度理事会

第1回理事会

開催日：2019年5月29日(木) 13:00 - 14:00

場 所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館2階多目的スペース1

ほかメール審議を含め数回程度理事会を開催する予定

2. 研究発表委員会

第23回海洋深層水利用学会全国大会

開催日：2019年10月10日(木)、11日(金)

開催場所：鹿児島大学内稲盛会館

3. 論文誌編集委員会

「海洋深層水研究」第20巻第1号・2号3号の発行

印刷部数：各300部程度

第2号については全国大会要旨集

4. ニュースレター編集委員会

年4回のニュースレター発行（6月、9月、12月、2020年3月）

内容：ニュースレター、特集、報告等

5. ホームページ編集委員会

ホームページ更新・メール配信

- ①開催案内・報告等：総会・理事会開催、全国大会・利用者懇談会関連（申込みフォーム）、学会賞
- ②発行物：ニューズレター、論文誌
- ③既存ページの更新・追加等
- ④バナー広告募集開始

6. 学会賞受賞審査委員会

学会賞候補者の募集（4月9日ホームページ掲示、4月10日メール配信）

推薦期限：2019年7月31日（水）必着

提出書類：別紙様式（郵送またはメール）

書類提出先：海洋深層水利用学会 事務局

7. 利用促進委員会

[1]全国利用者懇談会（2019 海洋深層水利用学会全国大会）

開催日：2019年10月9日（水）16:00-17:30

開催場所：鹿児島大学学習交流プラザ（鹿児島市郡元一丁目 21-24）

内容：基調講演「地球に残された最後の資源—海洋深層水の産業的価値(山田)」でキックオフ

[2]海洋深層水の利用促進に向けた医療・健康分野における周知・啓発活動（学術）

最近にわかに騒がしくなってきた海洋のマイクロプラスチック問題を鑑みて、本問題に対する正しい理解を促すことで海洋深層水の利用促進の鈍化を回避したいと思います。具体的な方策として、海洋深層水利用におけるマイクロプラスチック問題についてレビュー論文作成の上、当学会誌に投稿し、広く利用者に周知・啓発を図る予定です。

[3]海洋深層水の利用促進に向けた医療・健康分野における周知・啓発活動（実証）

高橋正征会長、池上康之総合戦略検討委員、竹内啓晃先生（国際医療福祉大学教授、高知大学客員教授）に協力頂き、企画内容および研究予算などの検討を継続する予定です。

8. 日台韓交流委員会

日台韓交流協定に基づき、以下の事業を実施する。

- (1) 相互の学会大会への会員の派遣に関する事
- (2) 相互の学会論文集への論文投稿に関する事
- (3) 相互の情報誌への記事掲載に関する事

9. 総合戦略検討委員会

[1]関係省庁との情報交換

関係省庁への2018年度の海洋深層水利用分野の動向の報告と今後の展望等について報告し、提案および情報交換等を行う。また、国内の海洋深層水利用に関するプロジェクトの事業化の推進および来年度概算要求に向けての地元の活動を支援していく。

[2]海洋深層水利用に関する学術分野の推進

- ・外部資金への応募

- 科研費「新学術領域研究（研究領域提案型）」への申請

- ・・・新たな研究領域を設定して異分野連携や共同研究、人材育成等を図る大規模なグループ研究をサポート

- ・生物生産分野
 - ・環境分野
 - ・エネルギー分野
 - ・医療・健康分野
 - ・地方創生分野、など。

- ・全国の深層水利用の学術分野での利用推進

- 全国の海洋深層水取水施設と全国共同利用共同研究施設である佐賀大学海洋エネルギー研究センターと協力し、可能な範囲で学術的な利用促進方法を検討する。

VIII. 2019 年度予算

2019 年度一般会計予算案

単位(円)

| 収入の部 | | | | |
|---------------|-----------------|------|---------|------------|
| 【会費収入】 | 個人会費収入 | 121* | ¥5,000 | ¥605,000 |
| | 学生会費収入 | 4* | ¥2,500 | ¥10,000 |
| | 団体会費収入 | 42* | ¥50,000 | ¥2,100,000 |
| | 2018年度会費収入(未納者) | 8 | ¥5,000 | ¥40,000 |
| 期収入合計[A] | | | | ¥2,755,000 |
| | 繰越金 | | | ¥5,675,309 |
| 収入合計[B] | | | | ¥8,430,309 |
| 支出の部 | | | | |
| 【事業費】 | 総会 | | | ¥30,000 |
| | 研究発表企画委員会 | | | ¥500,000 |
| | 論文誌編集委員会 | | | ¥1,000,000 |
| | HP/NL編集委員会 | | | ¥350,000 |
| | 利用促進委員会 | | | ¥100,000 |
| | 日台韓交流委員会 | | | ¥100,000 |
| | 選挙管理委員会 | | | ¥40,000 |
| 【事務局経費】 | 委託費 | | | ¥1,200,000 |
| | その他事務経費 | | | ¥200,000 |
| 当期支出合計[C] | | | | ¥3,520,000 |
| 次年度繰越金[B]-[C] | | | | ¥4,910,309 |
| 当年度収支[A]-[C] | | | | ¥-765,000 |

IX. その他